

# 厚生労働行政推進調査事業費補助金（障害者政策総合研究事業）

## 分担研究報告書

### 補聴器価格実態調査研究

#### —市場補聴器販売実績から考える支援法補聴器—

研究分担者 氏名：福島邦博 所属：医療法人 さくら会 早島クリニック  
氏名：蒲生貴行 所属：公益財団法人テクノエイド協会

#### 研究要旨

補聴器は、一般に補聴器販売小売店によって流通されている補聴器（市販補聴器）の他に、補装具として販売されている特別な器種（障害者総合支援法対応補聴器：制度内補聴器）が存在している。制度内補聴器の価格は制度上決定されていて過去3年間の変化がないが、技術の進歩も含めた内外の環境変化に基づく価格変動の状況について考察する事を目標に、まず市販補聴器の価格変化を検討した。一般社団法人日本補聴器工業会の協力を得て、加盟している補聴器メーカー11社に対し、調査票を送付して、2021年、2022年、2023年（各年4月1日時点）におけるメーカー希望小売価格を、①補聴器の機能別（プレミアム・スタンダード・バリュー）および②補聴器の形状別（耳あな・耳かけ・小型耳かけ）に調査した。過去3年間の価格上昇率は、全社の製品の平均値では、過去3年間のうちに、2021年比の価格上昇率はバリュークラスで5.43%、スタンダードクラス、プレミアムクラスでそれぞれ11.70%、10.69%の価格上昇が見られた。スタンダードクラスや、プレミアムクラスでは、過去3年の市場価格は毎年定率の上昇を示していたが、バリュークラスの器種ではいずれも価格のアップダウンがあり、低価格を維持する為の手配を行いながら全体で5%の価格上昇率を示していた。制度内補聴器はこうしたバリュークラスの器種よりはるかに低価格に抑えられている現状から考えると、あらためてその価格について考える必要があるが、そのためには補聴器のフィッティングのために必要なプロセスを明示化する必要がある。

#### A. 研究目的

補聴器は聴覚障害者の聞こえを支援するための医療機器（クラス II）であり、通常の市販品として流通・販売されている。その一方で、障害者総合支援法（以下、支援法とする）の制度で定める補装具としての補聴器は、各メーカーが「障害者総合支援法対応補聴器（以下、制度内補聴器とする）」として別立てで補装具費支給制度の価格帯にあわせた販売を行っている。通常の医療機器として補聴器（以下、市販補聴器とする）が、最新技術の導入や市場経済の影響を反映して年々価格が変動するような商品であることを考えれば、持続可能な福祉サービスの為には市場動向も踏まえた価格の変化は、本来制度内補聴器にも必要であると考え。しかし、前提条件として補聴器価格が決定しており、それに合わせた価格帯での商品が構成されている現状からは、

技術の変化も含めた補聴器価格の実態変化を捉える事ができない。このため、まず現状の市販補聴器の市価変動についての調査を行い、一般流通市場における補聴器価格の変化を調査し、制度内補聴器のあるべき姿について考える一助としたい。

#### B. 研究方法

一般社団法人日本補聴器工業会の協力を得て、加盟している補聴器メーカー11社に対し、調査票を送付して、2021年、2022年、2023年（各年4月1日時点）におけるメーカー希望小売価格及び器種名（今回調査では補聴器の形状を限定し、小型耳かけ型（RIC）、耳かけ型（BTE）、耳あな型（ITC）の調査を行った）を調査した。なお、2021年から2023年の間に販売中止やモデルチェンジ等になった場合は、市場動向の中で同一のポジションを占め

ると考えられる器種を回答してもらった。調査期間は、2023年7月12日から7月28日までとし、調査票の送付・返信は全てメールで行った。

なお、市販補聴器の場合、それぞれの時期の最新鋭の機能が搭載された器種から、すでにコモディティ化した機能で構成されている器種まで非常に幅広い機能の違い、そしてそれに起因する幅広い価格帯の商品が存在していて一律に評価することが困難である。このため操作的に①バリュークラス（廉価版であり、各社の商品ラインナップの中でも最安価層に位置する補聴器）②スタンダードクラス（各社で最普及器種と考えられる標準的な器種）③プレミアムクラス（高機能器種であり、高額な器種）の3つのグループに類型化した。また、補聴器の形状別にも①小型耳かけ（RIC型）、②耳かけ型、③耳あな型の3種類があり、それぞれ商品価格帯が異なるため、この3形状別にも調査を行った。

### C. 研究結果

補聴器メーカー11社より回答を得たが、そのうち1社はメーカー希望小売価格を提示していないため、調査から除外し10社を対象とした。

#### 1) 全社の平均値から見る市場価格の推移

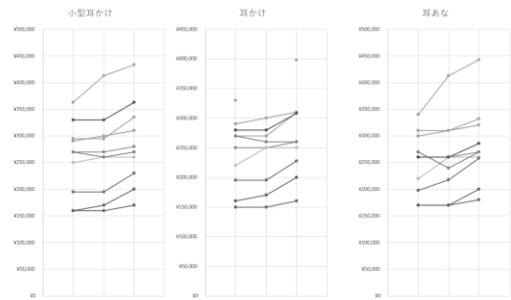
全社の製品の平均値では、過去3年間のうちに、2021年比の価格上昇率はバリュークラスで5.43%、スタンダード、プレミアムクラスでそれぞれ11.70%、10.69%の価格上昇が見られた。

年度	バリュー			スタンダード			プレミアム		
	2021	2022	2023	2021	2022	2023	2021	2022	2023
希望価格 (平均値)	¥154,276	¥152,279	¥162,383	¥249,867	¥254,793	¥278,438	¥457,967	¥466,552	¥504,260
価格上昇幅		¥8,107		¥28,572			¥46,293		
価格上昇率 (平均値)		5.43%		11.70%			10.69%		

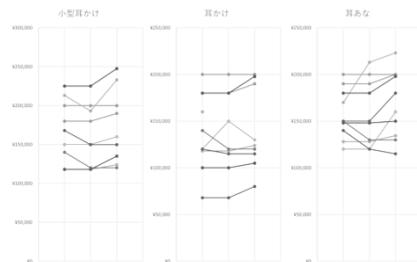
#### 2) 価格帯ごとの市場価格の推移

次に、各社の市販価格の推移をグラフに示す。まず基本となるスタンダードクラスの補聴器では過去3年間では、各社ともゆるやかな価格上昇傾向を示しており、上述した通り平均値では10%強の価格上昇を示していた。

スタンダードクラスの補聴器価格（メーカー希望小売価格）の推移

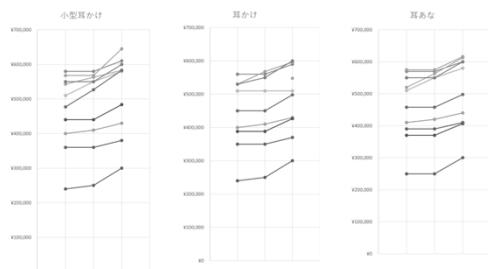


バリュークラスの補聴器価格（メーカー希望小売価格）の推移



それに比べるとバリュークラスでは不自然なup/downが目立つ傾向が顕著であった。

プレミアムクラスの補聴器価格（メーカー希望小売価格）の推移



### D. 考察

2021年から2023年までの3年間における市販補聴器の価格変動を調査して、技術革新や為替相場などの影響を受けた「自然な」補聴器小売価格の変化についての調査を行った。スタンダードクラスおよびプレミアムクラスの補聴器では、過去3年間で10%程度の価格変動が見られたが、低価格を維持する必要があるバリュークラスでは5%程度の価格上昇に抑えられていた。バリュークラスの価格設定の内実は、販売会社の意図もあるため詳細な理由について考察することは困難であるが、低価格器種ほど利幅が薄いため、カタログアップデート毎に仕様を変更する等して対応していることが考えられる。バリュー価格帯の補聴器の平均的な価格は、2021年では154,276円であり、通常の制度内補聴器の補聴器購入

基準価格である、高度難聴耳かけ型 43,900 円、重度難聴耳かけ型 67,300 円とは 2 倍以上の大きな違いがある。こうした状況を踏まえると、これまで補聴器各メーカーは告示価格内での販売を実現するため、旧モデル器種を扱うなどして対応してきていると推定される。市販補聴器の価格を基準にして考えれば、支援法対応補聴器が今後も持続的に提供できる環境を整備する為にも価格の改定について考える必要があると思われる。

今回の検討では社会的な市販補聴器価格を基準に補聴器販売という大枠から考えて制度内補聴器の価格変化のあるべき姿についての提言を行った。しかし、逆の視点として、適正な制度内補聴器購入基準価格を考える為には、補聴器の販売原価率から積み上げる形で適正な価格を決定する方法もある。しかし、そのためには現在ブラックボックスである補聴器の原価率に加えて、補聴器の適切な装用の為に必要なプロセスの明示化が必要である。販売店で行われている、評価やフィッティング、さらにカウンセリングやリハビリテーションなど、補聴器販売とセットになって提供されるプロセスにかかる経費などの標準化が行われるべきである。本邦でのこうしたデータは少ないが、米国のデータ<sup>1)</sup>を参照すると、売上総利益率（補聴器をフィッティングした上で販売した総収入から補聴器卸売コストを差し引いて粗利益を導き出し、その結果の粗利益を総収入で除したものの）の中央値は、55%とされている。上述のフィッティングやカウンセリングのプロセスにかかる経費がこの粗利益の中で購われると考えられ、従って原価率を考えるにはここに本来どのようなサービスが含まれるべきであるかについて丁寧に説明する必要がある。こうしたプロセスを明記していく事は、直接に補聴器装用を行う患者のメリットにつながると考えられ、今後の研究が望まれる分野である。

1) <https://hearingreview.com/practice-building/marketing/surveys-statistics/a->

[survey-of-key-metrics-for-benchmarking-a-hearing-practice-part-2](#)

## E. 結論

市販補聴器の価格変化を検討すると、過去 3 年間の 2021 年比の価格上昇率は 5.43% から 11.7% の価格上昇が見られた。スタンダードクラスや、プレミアムクラスでは、過去 3 年の市場価格はバリュークラスの器種ではいずれも価格のアップダウンがあり、低価格を維持する為の手配を行いながら全体で 5% の価格上昇率を示していた。制度内補聴器はこうしたバリュークラスの器種よりはるかに低価格に抑えられている現状から考えると、あらためてその価格について考える必要があるが、そのためには補聴器のフィッティングのために必要なプロセスを明示化する必要がある。

## F. 健康的危険情報

(分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入)

## G. 研究発表

1. 論文発表  
該当なし
2. 学会発表  
該当なし

## H. 知的財産権に出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得  
該当なし
2. 実用新案登録  
該当なし
3. その他